「**キリストに出会ってから～羊飼いの場合～**」（救い主降誕のできごと⑦）

ルカの福音書２章８～２０節

　イエスキリスト降誕の知らせが最初に伝えられたのが羊飼いであることには、大切な意味があるように思います。当時の羊飼いというのは社会的に信用がある立場の人たちではありません。少なくとも、このできごとを他の人たちに伝えるためにふさわしい人たちではありませんでした。しかし、神はそのような羊飼いたちを選ばれました。神の方から声をかけられたのです。
　彼らへのメッセージと、それを聞いた彼らの応答に注目しましょう。

① 彼らは喜びの知らせを聞いた

“御使いは彼らに言った。
「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。それが、あなたがたのためのしるしです。」” 10-

“すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現れて、神を賛美した。
「いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。」” 13-

② 彼らは救い主について告げられたことを伝えた

“御使いたちが彼らから離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは話し合った。「さあ、ベツレヘムまで行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見届けて来よう。」そして急いで行って、マリアとヨセフと、飼葉桶に寝ているみどりごを捜し当てた。” 15-

“それを目にして羊飼いたちは、この幼子について自分たちに告げられたことを知らせた。” 17

③ 彼らは神をあがめ、賛美する者たちとなった

“羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。” 20

◎思い巡らしてみましょう

・羊飼いに伝えられた救い主の誕生の「喜びの知らせ」は、今の私たちにとってどのような意味をもっているのでしょうか。